

# 帝塚山大学

帝塚山大学では、学習意欲の向上、基礎学力の向上と教育内容の質保証を実現するため、8年度からeラーニングシステム（TIES）を運用し、対面授業と事前事後学習を支援している。また、eラーニングシステム上での教員相互の授業公開などを通じて、大学連携による教材コンテンツの相互利用、ファカルティ・デベロップメント（eティーチング）の推進、大学と社会による教育連携の実現に取り組んでいる。支援組織であるTIES教材開発室は、学内をはじめ他大学にもeラーニングの支援を展開しているのが特徴である。

## 1. 実施規模

設置6学部の全学部で実施

※人文科学部、経済学部、経営情報学部、法政策学部、心理福祉学部、現代生活学部

※科目数：133科目（学内）、123科目（学外45大学）

※受講学生数：4,133名（延べ）

## 2. 授業での位置付け

授業アーカイブによる事前事後学習の徹底、大学連携・社会連携による共同授業など、多彩な活用がなされている。機能としては、学生がWeb教材を編集してノートを作成、学習履歴による個人指導、複数大学の教材利用、専門家による現場情報の提供などがある。他大学との連携は、現在、45大学が参加して、8,191タイトルの教材・資料が共有可能となっている。

## 3. 代表的な授業科目での活用状況

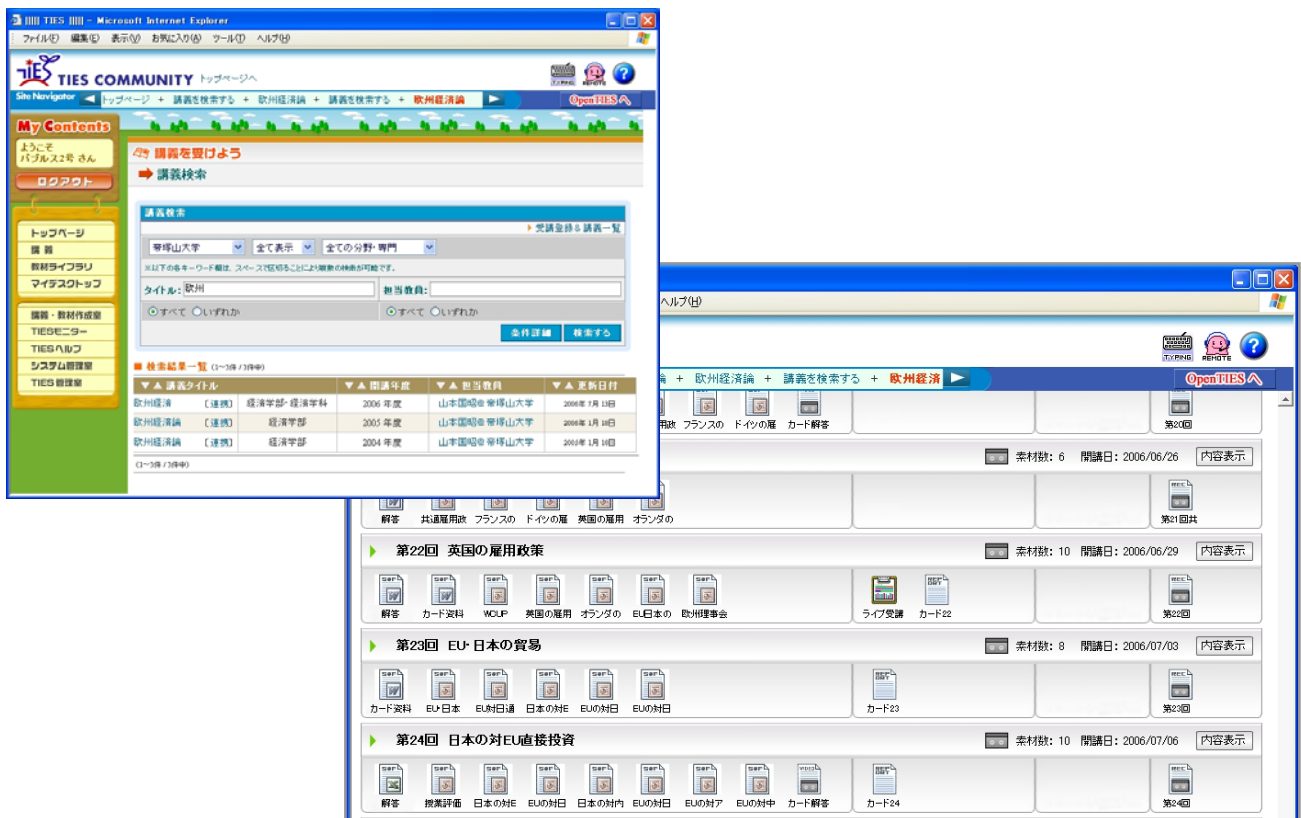
『欧州経済論』では、EU経済統合の方向性と日本経済の課題などを比較考察することを目的として、全ての教材・資料をeラーニングシステムに掲載している。講義のスタイルは、教室による対面授業だけではなく、ライブ映像による配信授業の何れかを学生が選択できるようにしている。配信授業では、eラーニングシステムで出欠確認を行い、教室からのリアルタイム映像と講義資料を演習室のパソコンで同時閲覧する。また、レポートはeラーニングシステムで提出する。なお、質疑応答は同システム上で自学自習時に行う。



（大教室での講義）



（コンピュータ実習室でのライブ受講）



(eラーニングシステムに掲載された授業毎回の教材一覧)

#### 4. 大学の支援体制・支援内容

副学長を室長とする TIES 教材開発室を設置しており、専任職員とアルバイト学生を配置して、eラーニングシステムの構築と運用管理、利用教員と学生への支援、教材作成、補助金申請、他大学との連絡・調整など広範な支援を行っている。教員向けの支援としては、春秋の学期前にeラーニング活用予定の有無を調査の上、教材作成などの個別支援を行い、講義期間中は教室でのマルチメディア機器の設置と回収、講義録画時に音声強弱の指示などのモニタリングとアーカイブ作成、学生の進捗確認、次の学期に向けた改善対策などを行っている。学生向けの支援としては、学期開始時のガイダンス、ヘルプデスクなどを行っている。

#### 5. eラーニングの活用効果

- ① 学習の動機付け、自学自習の習慣付け、個人指導の徹底、教材の豊富化が実現できる。
- ② 講義を相互に閲覧することで、授業設計の点検、教材内容の点検など、ファカルティ・ディベロップメントを通じて教育の質保証に取り組むきっかけができる。
- ③ 大学連携による教育内容の相互公開は、所属大学だけでは提供できない多様な教育を実現できる。

#### 6. 今後の課題

18年度より、TIES 参加大学と対象とする特定非営利活動法人（サイバー・キャンパス・コンソーシアム TIES）を設立して大学間の授業連携、教材の共有化を本格的に開始した。今後は、参加校の拡大と大学連携によるファカルティ・ディベロップメントを促進することとしている。

《問合せ先》

帝塚山大学 TIES 教材開発室 Tel:0742-48-8561 hori@tezukayama-u.ac.jp